



奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ New
- 病原体（ウイルス）検出情報（1月） New

（調査週）平成 25 年 第 5 週 1 月 28 日（月）～2 月 3 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	27.07	↑↑	↑↑	↑↑	↑
2	感染性胃腸炎	5.06	→	→～↓	→	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.94	→～↑	↑	→～↑	→
4	水痘	0.69	→～↓	→	→～↓	↓
5	RS ウイルス感染症	0.29	↓	↓	↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 812 例で、前週報告の 716 例から増加。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A 群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RS ウイルス感染症＝突発性発しんの順。インフルエンザの報告数（577→692 例）は、増加。突発性発しんの報告数（3 例）は、横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（19 例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（14 例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（76 例）は、減少。RS ウイルス感染症の報告数（3 例）は、やや減少。

また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC 管内；315 例、郡山 HC 管内；377 例の計 692 例、定点当たりの報告数は 25.63 だった。

眼科定点からの報告は、奈良市 HC および郡山 HC 両管内ともなかったが、

基幹定点からの報告が、郡山 HC 管内より細菌性髄膜炎；1 例（5～9 歳児）、マイコプラズマ肺炎；1 例（5～9 歳児）あった。

（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、687 例から 824 例と増加した。上位 5 疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは、573 例から 699 例と急増している。定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、26.05 から 31.77 と増加し、警報の域に入った。感染性胃腸炎は、86 例から 88 例と横ばいである。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎 1 例（5～9 歳）の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例（50 歳代）の報告が、桜井保健所よりあった。

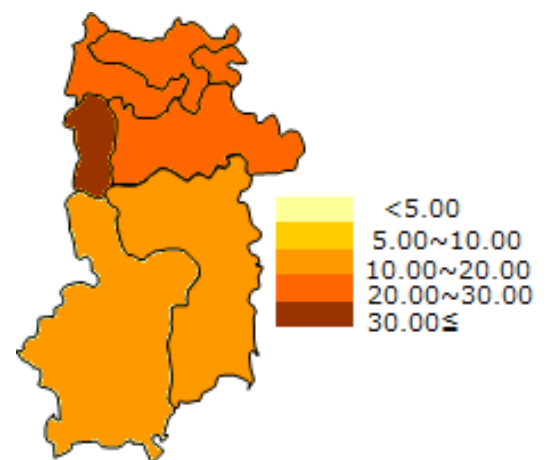
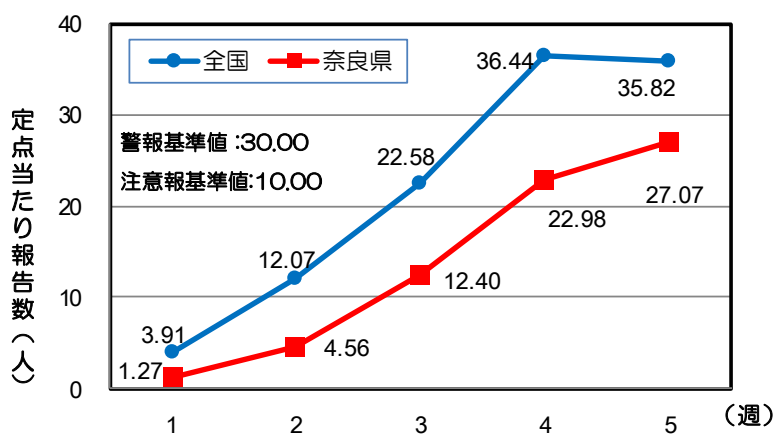
（高木 記）

県南部地区概況 報告数（第 4 週→第 5 週）は 133 例→120 例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（114 例→98 例）、②感染性胃腸炎（9 例→13 例）、③RS ウイルス感染症（2 例→4 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（1 例→3 例）、⑤咽頭結膜熱（0 例→1 例）、⑥水痘（1 例→1 例）であった。

（柳生 記）

【流行感染症情報：インフルエンザ】

インフルエンザの定点当たり報告数は、奈良県全体では 22.98 から 27.07 へと、さらに増加しました。全国値は 35.82 となり、前週より減少しました。



保健所別定点当たり報告数

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 1 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、1月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 25 年 1 月検出分）

検出病原体		北部	中部	南部	臨床診断名
ノロ	GⅡ	1	5		感染性胃腸炎(6)
インフルエンザ	AH3	2	1	4	インフルエンザ(5) インフルエンザ様疾患(2)
インフルエンザ	B	1			インフルエンザ(1)

（保健環境研究センター 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます

アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

